

筑波大学新聞

第383号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

目安箱 投書募集中

あなたの思い聞かせてください

中央図書館エントランスにて

注目記事

- 新歓祭5年ぶり制限なし開催
- 「そばたん展」に力作そろう
- 体操全日本で上田吊り輪2位
- 柔道田中男子73kg級で日本一
- 被爆証言87歳の村上さんに聞く

8 7 6 3 2

特集

国際化映し出す
筑波大の日本語教育 5

ワシントン大とAI共同研究 米2社が5000万ドル支援



調印式に参加した永田学長(右から3人目)ら=筑波大広報局提供

筑波大は4月10日、人工知能(AI)に関する連携協定を米ワシントン大と結んだ。米半導体大手エヌヴィディアと米IT大手アマゾンも参加し、10年間で計5000万ドル(約75億円)を支援する。岸田文雄首相の訪米に合わせ、首都ワシントンの米商務省で調印式が同日行われた。筑波大からは永田恭介学長が出席した。今年秋にも共同研究が正式に始まる。

(菅元愛香 心理学類4年)

共同研究ではAI研究に加え、人材育成やアントレプレナーシップ(企業家精神)の涵養、研究成果の実用化などにも取り組む。生成AIには個人情報を含めた大量のデータが必要で、プライバシーを守る研究が求められている。ハイテク企業が集う米シアトルにあるワシントン大の立地や筑波大の学際性を生かし、医療や体育、ものづくりなどの分野に応用できるAIの開発も予定している。

人材育成では、学生向けの特別プログラム実施や、研究者が両大学や企業間を行き来して交流を深めることなどを検討中だ。

5年ぶり復活の企画も 新入生が中心となって交流を深める「第50回回生祭」



応援部 WINS の力強い発表(6月1日、平砂学生宿舎前) = 壬生奏太撮影

新入生が中心となって交流を深める「第50回回生祭」が5月31日、6月1日に平砂学生宿舎周りで開かれた。初回から丸50年の節目の年で、やどかり祭実行委員会による特別記念企画も登場。会場は食べ歩きしたり、ステージ発表を楽しんだりする学生らでにぎわった。

平砂共用棟南側のメインストリートにはかき氷や輪投げなど50を超える模擬店が立ち並んだ。

筑波大の友人と一緒に訪

筑波大は人工知能科学センターを2017年に設置。ビッグデータを活用したAI研究を進めてきた。同センター長の櫻井鉄也

教授(シス情系)を中心に、個人情報を守りながらビッグデータを活用する技術を米オハイオ州立大などと共同開発した実績があり、22

年秋に駐日米大使館から連携を打診されていた。櫻井教授は「共同研究で10年の長期間は珍しい。産官学の広い視点からじっくり研究に取り組み、筑波大をAI研究の一大拠点にしていきたい。学生にとってもグローバルな経験ができる機会になれば」と語った。

8月6日。地元広島市では毎年、「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開かれる。高校時代はこれとは別に、学校で開かれる「原爆忌」に参加していた。当時旧制中学だった母校では、米軍による原爆投下で生徒・教職員522人が被爆死した。焼香に訪れる遺族の姿に、原爆は過去のことではないと思いついた▼ところが、つくばの8月6日は他の日とほとんど変わりが無い。自分自身、原爆や平和について周囲の学生と語ることもなく、1日が過ぎ去っていった▼何かできることはないか。そう考えていた矢先に、つくば市で被爆体験を語り続けている女性の存在を知った。今号(8面)で紹介した村上啓子さん(87)だ▼取り

CFPOに野手氏 銀行出身 自立した財務基盤確立へ



野手弘一氏

筑波大は4月1日、「事業・ファイナンス局」を新設した。資金調達と資金・資産の運用を一体的に行うことで自立した財務基盤を

確立し、研究・教育体制を強化する。統括役の最高財務責任者(CFO)ポストも新設され、三井住友銀行で企業年金運用を手がけた野手弘一氏が着任した。

同局は「資産運用・ファイナンス室」と「事業・リース・推進室」の2室からなる。財務部門から

ファイナンス部門を独立させ、寄付金の受け入れ部門と資産運用を一体的に強化する形で設置された。野手氏が局長を兼ねる。

資産運用・ファイナンス室は運用収入の増加を目指す。また、学内から意欲的な職員を募ってファンドマネージャーも育てる。他大

の職員を受け入れ、筑波大で身に付けた知識や経験を活用してもらったり、他大学と共同運用したりすることで、国立大全体の資産運用の高度化を図る。

事業・ファイナンス担当の益戸正樹理事は「筑波大附属学校の子供たちへの金融教育を進めたい。また、筑波大の卒業生が将来、CFOとなり、運用に携わるようになれば素晴らしい。大学での充実した時間がロイヤルティーを生み、社会

人になってからの寄付文化にもつながれば」と語る。

事業・リース・推進室は運用する資金集めを担う。インベシジョン拠点「IMAGINE THE FUTURE Forum」で実施予定の企業との開発研究で得られる資金などに加え、世界の卒業生ネットワークからの寄付金獲得などを想定している。

コンプライアンス(法令順守)徹底のため、資金運用委員会の体制も強化し

た。委員1人の過半数を外に委嘱し、運用や経済分析、不動産投資などの専門家に加わってもらった。

野手氏は「経験を生かして透明性ある運用を行い、筑波大の財政面の発展と持続可能性確保に全力を尽くす」と話した。

筑波大は昨年度50億円を独自に運用したが、今後は100億円規模の運用を目指すという。

(菅野心平 物理学類2年)

「つくば型チュートリアル学修」始動

40年度までに全学で導入へ



「学問探究チュートリアル」のポスター(5月29日、本紙編集部で撮影)

学生自らが探究したい課題を設定し、教員の助言を受けながら探究を進める授業「学問探究チュートリアル」が今年度春Bモジュールから開講した。筑波大は2020年10月に指定国立大学法人に指定された。その際に「チュートリアル教育の全学的導入」を掲げており、同授業はそれを先導する役割を担う。今年度の受講者は36人だが、約10年をかけて全学的導入し、「つくば型チュートリアル学修」の確立を目指す。

チュートリアル教育では、少数の学生にチューター教員が配置される。学生の関心に応じて助言し、さまざまな専門領域の教員に話を聞けるように支援したりする。幅広い学問領域の教員が在籍する筑波大の特色が生きるシステムだ。

同授業は学士基礎科目として学群1年生向けに開設され、人文・文化学群や生命科学学群、理工学群、総合学域群など計8学群・学

域群の学生が受講を希望した。専門分野が異なる28人の教員がチューター教員となって指導する。

筑波大チュートリアル学修推進委員長の坪内孝司教授(シス情系)によれば、春Bモジュールではグループワークが中心になる。まず、受講生それぞれが大学で取り組んでみたいことをまとめて、他の受講生と共有する。さらに、気候変動など地球規模課題を題材に、チューター教員も一緒に、何が課題かを発見したり、解決の糸口を見つけての手立てを考えたりするトレーニングを積む。

春Cモジュールと秋学期は、学生2人とチューター教員2人が組になって個別の対話を重ね、受講生の立

てた問いに沿った活動を実践する。また、各受講生は学びの軌跡を共有し、2年次以降の学びにつなげていく。

「学問探究チュートリアル」の開講を足がかりに、2028年度からの6年間で1000人規模に拡大し、34年度からの6年間で16000人規模に拡大する計画だ。

坪内委員長は「一方的な知識の伝達にとどまらず、学んだことを課題解決に生かせるようになることが、大学教育の理想だ。学問探究チュートリアルはその導入であり、受講生には知的好奇心を活性化する機会にしてほしい」と語る。

(川上真生 社会学類3年)

れた水戸市の大学生、松崎沙彩さんは「模擬店に加え、ステージ発表もあるのが楽しかった。楽器演奏とチャリディングが一体になった応援部のパフォーマンスは迫力があったと話した。

1日午後にはのど自慢企画「やどかり」が行われ、予選を突破した6人が出場した。5年ぶりの復活で、参加者の熱演を観客が拍手

子で応援した。

50周年記念企画「神成ダービー」には、祭の実行委員のメンバーが登場。グローバルヴィレッジから平砂共用棟まで約2000人を約30人が駆け抜けた。実行委員長の河合達之輔さん(障害3年)が1位となり、福男として御輿で担がれ、観客に祝福された。

河合さんは「50周年の節目で、多くの卒業生も駆けつけてくれた。クラウドファンディングでは昨年の4倍近い110万円余が集まり、企画を充実させられた」と話した。(菅野心平)

新歓祭 コロナ前の活気戻る 運営は新体制に



在学生が新入生に声をかけながら学内を練り歩いた(4月6日、第一エリアで) = 加藤緑撮影

新入生歓迎祭(新歓祭)が4月6日に開催され、昨年より約80団体多い約200の学生団体が参加した。第一エリアの教室や屋外ブースでは展示やヒラ配りが行われ、石の広場など三つの特設ステージではパフォーマンスが披露された。昨年は感染症対策で人数制限を設け、午前と午後で参加者を分けたが、今年はこれらの制限がなくなった。用意されたパンフレット2000部がなくなる人気で、会場にコロナ禍前の賑わいが戻った。

(勝原経太II社会学類2年、野田健祐II応用理工学類4年)

第二エリアでの教室企画には約20団体が参加した。ボードゲームやテーブルトーク・ロールプレイングゲーム(TRPG)好きが集まるサークル「T.A.S.C.(たすく)」はボードゲームの体験会を開き、教室の外まで順番待ちの行列ができた。

約30種類用意されたゲームは、来場者がその場でルールを作って楽しむものが多く、新入生同士の交流も深まっていた。

また、松美池前には今年

度からステージが新たに設けられ、ダンスや太鼓パフォーマンスなどを立ち止まって鑑賞する新入生が多く見られた。

新歓祭の運営組織は今年度から変わった。これまで文化系サークル連合会、体育系同、芸術系同のメンバーで構成する新入生歓迎祭推進委員会(新推委)が運営していたが、全学学類・専門学群・総合学域代表者会議(全代会)と学園実行委員会(実委)も運営に加わった。

昨年度、割り振られた業務をこなさないメンバーが多く、運営に支障が出ていたという。

新歓祭の時長隆乃介委員長(物理3年)は「制限な

4大学結び環境問題議論

「行動起こすきっかけに」

大学生が環境問題について考え、行動を起こすきっかけを作ることを目的とした「Japan Sustainability W

大学生が環境問題について考え、行動を起こすきっかけを作ることを目的とした「Japan Sustainability W



「行動起こすきっかけに」

大学生が環境問題について考え、行動を起こすきっかけを作ることを目的とした「Japan Sustainability W

「行動起こすきっかけに」

大学生が環境問題について考え、行動を起こすきっかけを作ることを目的とした「Japan Sustainability W

「行動起こすきっかけに」

大学生が環境問題について考え、行動を起こすきっかけを作ることを目的とした「Japan Sustainability W

「行動起こすきっかけに」

大学生が環境問題について考え、行動を起こすきっかけを作ることを目的とした「Japan Sustainability W

つくば市内で本読みデモ ガザ侵攻に抗議

パレスチナ自治区ガザ地区で昨年10月に始まったイスラエルの軍事侵攻に抗議するデモが、米国の世界最大の大学に広がっている。筑波大でも安田菜由さん(人文P前期2年)と上田由至さん(人文P後期4年)が、パレスチナに関する本を路上に並べ、道行く人々に読んでもらう「本読みデモ」を今年3月に始めた。2人は「静かなデモを通じ、現地の実情を多くの人に知ってほしい」と訴えている。

(金慧欣II知識情報・図書館学類2年、写真も)



活動を続ける安田さん(右)と上田さん(5月26日、つくば駅前広場で)

つくば駅前広場(つくば市吾妻)で4月21日に開かれたデモでは、「パレスチナがわ出版」や「まんがパレスチナ問題」(山井教雄著、講談社現代新書)など約20冊の書籍がビニールシートの上に並べられた。「今おきている大量虐殺のパンチに座り、本を手に読みふけていた。」

5月末時点でガザ地区の死者は3万6000人を超えたとする報道もある。安田さんは「本読みデモを始める前からパレスチナについて調べ、現地で起きていないと感じた」と語る。

2人はデモに合わせ、活動への思いなどをつづった「路上の抵抗通信」を配布している。今後も、筑波キャンパスとつくば駅前広場でそれぞれ週一回、本読みデモを続けるという。



博士号

あまえさんたちのために叱ったわけじゃないよ。

博士号

あまえさんたちのために叱ったわけじゃないよ。

博士号

あまえさんたちのために叱ったわけじゃないよ。

博士号

あまえさんたちのために叱ったわけじゃないよ。

博士号

あまえさんたちのために叱ったわけじゃないよ。

博士号

あまえさんたちのために叱ったわけじゃないよ。

博士号

あまえさんたちのために叱ったわけじゃないよ。



世話を続ける中で人に懐いた「たいがくん」(5月19日、平砂学生宿舎付近で)

日々の猫の様子を撮った写真は、サークル内で共有され、ゴロンと寝そべる姿や甘える姿がメンバーの心を和ませている。

TNRは新しい大学猫がすまふく度に行われていた。最近では昨年度に現れた雄の茶トラ猫の「たいがくん」にも、翌

世話を続ける中で人に懐いた「たいがくん」(5月19日、平砂学生宿舎付近で)

日々の猫の様子を撮った写真は、サークル内で共有され、ゴロンと寝そべる姿や甘える姿がメンバーの心を和ませている。

TNRは新しい大学猫がすまふく度に行われていた。最近では昨年度に現れた雄の茶トラ猫の「たいがくん」にも、翌

HSCaT

HSCaT

動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)から餌の提供などの協力を得て、計10匹(金砂エリア7匹、一の矢エリア3匹)の猫の面倒をみている。

それぞれの猫にはコンテナを加工した専用の寝床が用意され、毎日給餌給水する。1週間のうち3日間

HSCaT

動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)から餌の提供などの協力を得て、計10匹(金砂エリア7匹、一の矢エリア3匹)の猫の面倒をみている。

それぞれの猫にはコンテナを加工した専用の寝床が用意され、毎日給餌給水する。1週間

HSCaT

動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)から餌の提供などの協力を得て、計10匹(金砂エリア7匹、一の矢エリア3匹)の猫の面倒をみている。

それぞれの猫にはコンテナを加工した専用の寝床が用意され、毎日給餌給水する。1週間

HSCaT

動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)から餌の提供などの協力を得て、計10匹(金砂エリア7匹、一の矢エリア3匹)の猫の面倒をみている。

それぞれの猫にはコンテナを加工した専用の寝床が用意され、毎日給餌給水する。1週間

HSCaT

動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)から餌の提供などの協力を得て、計10匹(金砂エリア7匹、一の矢エリア3匹)の猫の面倒をみている。

それぞれの猫にはコンテナを加工した専用の寝床が用意され、毎日給餌給水する。1週間

大学猫と共に生きる

大学猫と共に生きる

動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)から餌の提供などの協力を得て、計10匹(金砂エリア7匹、一の矢エリア3匹)の猫の面倒をみている。

それぞれの猫にはコンテナを加工した専用の寝床が用意され、毎日給餌給水する。1週間

記者の声



青野心平

博士人材 ロールモデルの経験共有 活躍の場の幅を広げたい

【4面に関連記事】「博士課程に進むと将来は研究者になるしか道がなさそう」「社会に出る年齢が遅れ、劣等感を感じる」本紙「反射鏡」の取材で筑波大生に「博士」のイメージを聞くとき、否定的な意見が多かった。物理学を学びたくて筑波大に入った筆者も同感で、博士後期課程進学までは考えていなかった。

日本の博士離れは深刻だ。国内の博士後期課程進学者は2003年度の1万8000人から、2023年度の1万8000人に減った。だが、否定的な意見ばかりを聞く中で、むしろ博士への関心が高まった。世界では、研究分野にとまらず社会をけん引する専門人材として「博士」は引く手あまただ。

そんな矢先、ヒューマンエンパワーメント推進局(BHE)が設置された。

再訪者は、地方に分散する傾向もみられる。欧米系の旅行者行動もこれに類似するが、スキーリゾートでの長期滞在、富士登山、熊野古道や中山道でのトレッキングなどの個別のツーリズム形態も目立っている。

しかし、インバウンドが日本の観光産業や社会にもたらす影響は、地方に分散する傾向もみられる。欧米系の旅行者行動もこれに類似するが、スキーリゾートでの長期滞在、富士登山、熊野古道や中山道でのトレッキングなどの個別のツーリズム形態も目立っている。

筑波時評

今日、コロナ禍を経てインバウンドツーリズム(以下インバウンド)が再成長している。実は日本は、2000年ごろまでアウトバウンドの規模がインバウンドのそれを大幅に上回る国際観光収支の赤字国だった。

03年「ビジット・ジャパン・キャンペーン」政策開始後、10年ごろから中国や東南アジア諸国からのインバウンドが急速に成長し、日本は世界有数の外国人旅行者受け入れ国になった。東京・京都・大阪間のゴールデンルート(約300万人、19年)を巡ることが多いが、アジア系の初来日旅行者は、人旅行者受け入れ国になった。東京・京都・大阪間のゴールデンルート(約300万人、19年)を巡ることが多いが、アジア系の初来日旅行者は、人旅行者受け入れ国になった。

インバウンドの光と影 ツーリズムの普及が必要

特定の地域への過度な観光客の集中によって地域住民の生活の質や環境に負の影響が、また観光客の満足度低下が生じるものがある。先述した日本国内での負の影響は、オーバートーリズムとの関係が深い。

ただし、富士山へのサンダル登高や撮影目的の私有地等への侵入はマナーの問題に基づくものであろう。観光倫理を逸脱した観光客の行為が、ツーリスト

呉羽正昭 教授 (地誌学、山岳観光学)



生命環境系・教授。筑波大第一学群自然学類卒。インスブルック大自然科学研究科修士。Ph.D. 愛媛大文学部助教授などを経て現職。

が「博士のポトフォリオ大公開」と題して、学生向けの懇談会を開くと知り、参加した。講師は筑波大大学院で学び、博士の学位(障害科学)を取得したBHEの長山慎太郎助教だ。

「研究を通してやりきる力がつく」「学会などでの研究発表を通じ、人脈が広がる」などの文部科学省は今年3月、40年人口100万人当たりの博士号取得者数を20年度比で3倍に引き上げる「博士人材活躍プラン」を公表した。プランでは、

反射鏡

「博士」とりまますか

文部科学省は今春「博士人材活躍プラン」を打ち出した。産業界や教育界に採用拡大と処遇の改善を働きかけ、博士号取得者を2040年までに20年度比で3倍に増やすという。筑波大生は「博士」についてどう考えるのか。中央図書館前などで聞いた。(川上真生)

【博士3年・男性】 筑波大では、人材育成プロジェクトが科学技術振興機構(JST)の新規プロジェクトに採択され、今年度から博士後期課程の学生の約4割が経済支援の対象となった。研究に専念できる環境が整備されることを歓迎したい。

いづれにせよ、まずは私たち学生が、先人観として持つべき「博士」に対する否定的なイメージを払拭し、彼らの体験を積極的に聞くことが重要ではないか。それは、大学にいる今だけ、そのチャンスを活かしてほしい。1990年代に博士研究員を6割増やすことを掲げた文科省の「ポストクイ万人計画・物理学類2年」

今、一番ほしいもの

春学期が始まって2カ月。新生活を送る中で、「あれがほしい」「これだけはかなえない」と考えた時期ではないか。筑波大生が、心からほしいと願っているものは何か。中央図書館前などで聞いた。(シタス・ポタン)

【物理P前期2年・男性】 学生自身の意思によるもの博士課程に進学する予定が大き、国の政策に大きく影響が大きいからだが、な効果は期待できない。そうでない人にとって博士課程の3年間を研究に費や博士人材を増やそうとするのは大変だ。進路選択は政策には賛成だ。「日本

【化学3年・男性】 食堂に安くて量が多いメニューがほしい。一汁一菜があるから。自転車でいりから、300円でお腹いっぱいになれる。これが多い。4月初めは気合を入れて毎日お弁当を作っていたが、さすがに大変で今は週2日になっている。残り3日のうち2日は学食、1日は節約のために昼食抜きで過ごしている。もし安いメニューがあれば、昼食抜きで過ごすのもいい。授業の間の休み時間がもっとほしい。大学会館か

【物理1年・男性】 筋トレの時間がほしい。高校1年生まで10年間サッカーをしていたが、受験期に筋肉が落ちた。今はジム

【物理2年・女性】 トースターがほしい。フライパンでもパンは焼けるが、上に何かを乗せて焼くことができない。暑い時はエアコンを使いたいが、5、6月ごろから夏の終わりで使っている。電気代がかさむ。扇風機で初夏を乗り切り、エアコンの使用は真夏だけにしたい。

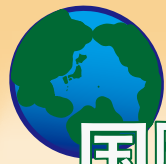
【物理3年・男性】 旅行に行く休みがほしい。勉強が忙し中、旅費を貯めるためにアルバイトもしている。精神的にも肉体的にも疲れた。K-POPが好きなので、今年の夏休みには韓国に行きたい。



イラスト=結城希(国際総合学類2年)

国際理解

国際化映し出す 筑波大の日本語教育



小野正樹教授

多彩な7コース用意

筑波大の外国人留学生は552人(昨年10月1日現在)で、学生の約13%を占める。多くが受講するのが日本語の授業だ。学生のレベルや目的に合わせて多彩なコースがあり、日本語教育を担う「筑波大グローバルコミュニケーション教育センター(CEGLOC)」は、文部科学省から日本語教育の共同利用拠点に指定されている。その現場取材すると、筑波大の国際化の一端が見えてきた。シダス・ポーダンII人文学類、川上真生、勝原経太郎社会学類、結城希II国際総合学類、青野心平II物理学類、新田早紀II生物資源学類)

CEGLOCで用意している日本語コースは、総合日本語補講日本語、キャリア支援のための日本語、学群英語プログラム日本語、学群英語プログラム日本語などにも取り組む。

このうち総合日本語は、海外の協定校から留学して来る学部レベルの特別聴講生向けだ。学生のレベルに応じて、コースは細かくクラス分けされている。

補講日本語は学群生、大学院生から日本語研修生、帰国学生まで対象は広く、

日本の農業問題に関心



バキトフ・サンジャルさん

外国人留学生に日本語授業の感想や留学目的などを聞いた。

バキトフ・サンジャルさん(G教2年)IIキルギス出身

母親が筑波大大学院に通っていたため、中学校の3年間、つくばに住んでいた経験があり、自分も筑波大への留学を決めた。

日本人とキルギス人は外見がよく似ているが、文化はまるで違う。来日当初は建前の文化に戸惑ったが、今ではこの文化も含めて好きになった。筑波大での日本語の授業は、先生がいろいろな工夫してくれる

日本語で専門分野学ぶ



伊原ゴクラマ紗弥さん

伊原ゴクラマ紗弥さん(物理3年)IIフランス出身

小さい頃から剣道をしてきた。どうせなら、強豪で知られる大学で剣道を究めたいと思い、1年間の交換留学で筑波大に来た。

母が日本人で、フランスでは週に1回、日本語補習学校に通っていた。しかし、通常の生活では日本語を使う機会が少なかった。今は日本語での会話の基本で、勉強している物理学の専門用語なども日本語を使う。

一緒に受講している学生は日本語初心者もいて、話を通じたいということもあるが、自由に話せる雰囲気がある。

留学生インタビュー

ので、飽きない。例えば、クイズ大会を開けるアプリを用いた授業などがある。

普段は中央アジアの水問題について学んでいる。農業従事者の減少など、日本の農業問題にも関心があり、将来は日本で就職したい。

記者の目

ウクライナから避難し、特別聴講生として学んでいる。日本の漫画や武士道の精神が好きで、ウクライナの大学で日本語を学んでいる。



ガルマーエヴァ先生(右)の授業を受ける学生ら(5月17日、9L棟) = 新田早紀撮影

生活に役立つ表現学ぶ

陳一吟先生は「補講日本語」の中でも日本語初級者の学生を対象にした授業を担当している。現在は8人前後が受講しており、授業の主体は会話練習だ。

「〇〇に行きませんか」など日常会話がよく使われるフレーズを聞いた後、学生同士で「授業が終わったら、カレーを食べに行きませんか」「はい、行きましょう」のように会話する。

ボランティアの日本人学生を交えて自由に会話をする授業では、話が盛り上がったまま、授業後も会話が続くこともあるという。

授業では、留学生がスポーツや教育、ビジネスなどのテーマについて日本人学生にアンケートし、その結果を発表するプロジェクトワークを中心に行われる。会話のほとんどは日本語で、日本語によるアンケート作成そのものも授業の一環だ。

また、週に3回の授業で欠かせないのが「漢字タイム」だ。担当になった学生2人が新しく学んだ漢字の書き順、音読み・訓読みをよく使われる熟語について資料を作って発表する。発表中に先生から正しい発音の指摘や学生から熟語の意味などの質問もある。

オリガさんは「学生が主体となって取り組むことで、日本語の習得効果が高まる」と指摘する。

担当教員インタビュー



陳一吟先生

日本語授業を紹介した2人の外国人教員に、日本語教師になったきっかけや授業への思いを聞いた。

日本語を習得状況に応じた会話の時間を長くしたり、フレーズを変えたりする。また、提案を断りたいとき、「それはちょっと」と言葉を濁して伝えるといった日本特有の表現も学ぶ。

ポランティアの日本人学生にアンケートし、その結果を発表するプロジェクトワークを中心に行われる。会話のほとんどは日本語で、日本語によるアンケート作成そのものも授業の一環だ。

また、週に3回の授業で欠かせないのが「漢字タイム」だ。担当になった学生2人が新しく学んだ漢字の書き順、音読み・訓読みをよく使われる熟語について資料を作って発表する。発表中に先生から正しい発音の指摘や学生から熟語の意味などの質問もある。

オリガさんは「学生が主体となって取り組むことで、日本語の習得効果が高まる」と指摘する。



ガルマーエヴァ・オリガ先生

使える日本語身に付けて

2011年、比較文化学類に入学しましたが、とっつきにくい日本語に戸惑った。私の胸の内には次第にむなしさが募り始めました。就職活動にもとんとん嫌気がさして大学院に進みましたが、ついに勉強してこなかった人間が太刀打ちできるほど甘い場所ではありませんでした。当時の指導教員が見かねて教えてくれた哲学書道徳と宗教の二源泉(アンリ・ベルクソン著)を基に、「キリスト教の『神の愛』が人を愛する時に働く情動的機制」について研究しましたが、修士論文の執筆期間が苦しみにあえぐ時間でした。

しかし、暗い夜の中で、研究室の書棚に眠っていた聖書を手にし、時々足を運んでいた教会での礼拝中に「十字架を担いで歩く血だらけの男性の幻を眼前に見、ベルクソンが言っていた神の愛はこの人のもとにある」という確信を与えられました。それを経て、今では一人のクリスチャンとして生きています。

修論を命からがら書き終えた2年後に大学院を退学しました。私を心配した兄弟たちが仕事を探してくれ、BHEの前身であるタイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACCセンター)に就職が決まりました。そして、博士後期課程にいたという経験を買われて、今では博士人材のキャリア支援に携わっています。ついこの間まで働きたくなかった人間が、稚気あふれる博士人材たちの道行きが守られるように願いつつ……こんな風に、人生を一変させる出会い



安部隆虎さん

「いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝しなさい」。新約聖書(新共同訳)に収められたパウロ書簡の一つ「テサロニケの信徒への手紙」からの引用です。約2000年前に書かれた手紙であり、私の人生の指針でもあります。

筑波大で過ごした学生時代の9年間を振り返ると、「読んで字のごとく「天佑神助」は存在するのだと実感します。東日本大震災のあった

学生同士の交流図る

動員して意思疎通を図ってほしいから。学生から漢字に関する難しい質問をされた時には、漢字が得意な学生に質問することもある。知らないことがあっても恥と思わず、学生と一緒に答えを見つめたい。

留学生のルーツが多様な中、人種や出身地などセンシティブな話題は、教員側からは触れないようにしている。

生きた日本語学んだ

本人の先生からは、冗談の言い方など、生きた日本語を学べた。一方で、外国人の先生の授業では、先生自身が日本語の難しさを知っているのだから、分からないことを質問しやすかった。こうした経験から、本紙で筑波大の日本語教育を特集することを編集部に提案した。

今後は日本での就職に必要な日本語能力試験(JLPT)の資格取得を目指し勉強を続けるつもりだ。本紙での活動を通じて、「使える」日本語を身に付けたい。

(シダス・ポーダン)

人生を一変させる出会い

あなたも、いつかあんな時があったら、幸せであること、主の御名によって祈ります。(平成26年度比較文学類卒、令和元年度人文社会科学部研究科哲学・思想専攻退学、写真は川上真生撮影)

高橋が短距離2冠 大会 MVP 男女とも総合2位

【国立競技場(東京都新宿区)で川上真生II社会学類3年、写真も】関東学生競技対校選手権(関東インカレ)が5月9〜12日に開かれた。筑波大は高橋亜珠(体育学)が女子1000mハードルと女子200mで優勝し、大会女子最優秀選手(MVP)に選出された。筑波大勢は男女合わせて計5種目で優勝し、リレーを含め計31種目で延べ59人が入賞した。総合順位は男女とも2位で、男子は昨年の6位から大きく順位を上げた。

陸上



また、女子走高跳では宗澤ティファニー(同4年)と八重樫登佳(同4年)が2年ぶりの優勝を果たした。宗澤は「応援を受けながら楽しんで走ることができた。パリ五輪に向け、日本選手権で結果を残したい」と話した。

高橋は女子1000mハードル決勝で、自己ベスト(13秒55)を大きく更新する13秒28で優勝した。U20(20歳以下)日本歴代2位となる好記録だった。また、走り強化が目的で出場した女子200mでも23秒87で優勝した。

高橋は「本職の1000mハードルでは、ハードルを乗り越える体勢から走る体勢に素早く戻れたことで、良い走りが出てきた。総合順位争いでチームに貢献できうれし」と話した。



ゴールラインをトップで走り抜ける高橋(5月12日、国立競技場で)

また、女子走高跳では宗澤ティファニー(同4年)と八重樫登佳(同4年)が2年ぶりの優勝を果たした。宗澤は「応援を受けながら楽しんで走ることができた。パリ五輪に向け、日本選手権で結果を残したい」と話した。

全日本総合 上田吊り輪2位

インカレへ弾み

体操競技の個人日本一を決める全日本個人総合選手権が4月11〜14日に高崎アリーナ(群馬県高崎市)で開かれた。筑波大からは女子5人、男子4人が出場し、上田悠太(体育学3年)が男子種目別吊り輪で2位に入った。同床に出場した平松航河(同4年)は27位、昨年度の同選手権で女子個人総合3位だった深谷こころ(体育学1年)は同12位だった。

体操



上田は4度目の同選手権出場で、今回は種目別吊り輪の1種目のみだった。予選では、着地でミスが出たものの、得意とする力技の姿勢などが評価されて14・5333点を挙げ、4位で決勝に進出した。決勝では、着地も安定し、予選を上回る14・6666点(Dスコア6・200、Eスコア8・466)を挙げたが、トップには0・2000及ばなかった。



地面と並行を保つ力技の姿勢は高く評価された=体操競技部提供

200、演技の出来栄を示すEスコア(演技実施点)は8・3333だった。決勝戦では着地も安定し、予選を上回る14・6666点(Dスコア6・200、Eスコア8・466)を挙げたが、トップには0・2000及ばなかった。

【つくば国際会議場(つくば市竹園)で川上真生II社会学類3年、写真も】コンピュータゲームで競い合う「eスポーツ」の普及を目指したイベント「茨城県eスポーツフェス」が3月26日(つくば国際会議場)に開催された。会場にはeスポーツの「する・みる・まかせる」をそれぞれ体験できるコーナーが複数設けられた。大学生チームなどによるエキシビジョンマッチや、eスポーツの健全な発展を目指す

【筑波大学第一サッカー場で山本貴世II国際総合学類2年、写真も】筑波大学eスポーツフェスティバルが3月31日、筑波大学第一サッカー場で初開催された。筑波大学蹴球部など筑波大の18運動部が集結し、初心者でも楽しめる体験ブースを出展した。各ブースを巡るスタンパラリーも行われ、家族連れや各部のファンら約1000人が来場。会場にはeスポーツを楽しむ人々の明るい声が飛び交った。

【つくば国際会議場(つくば市竹園)で川上真生II社会学類3年、写真も】コンピュータゲームで競い合う「eスポーツ」の普及を目指したイベント「茨城県eスポーツフェス」が3月26日(つくば国際会議場)に開催された。会場にはeスポーツの「する・みる・まかせる」をそれぞれ体験できるコーナーが複数設けられた。大学生チームなどによるエキシビジョンマッチや、eスポーツの健全な発展を目指す

【筑波大学第一サッカー場で山本貴世II国際総合学類2年、写真も】筑波大学eスポーツフェスティバルが3月31日、筑波大学第一サッカー場で初開催された。筑波大学蹴球部など筑波大の18運動部が集結し、初心者でも楽しめる体験ブースを出展した。各ブースを巡るスタンパラリーも行われ、家族連れや各部のファンら約1000人が来場。会場にはeスポーツを楽しむ人々の明るい声が飛び交った。



体操部員に教わりGボールに乗る参加者(3月31日、筑波大学第一サッカー場で)

会場には、各競技で使用するラケットやボールなどの用具を持って記念撮影ができるフォトスペースも設置された。イベントのフィナーレは部対抗リレー。来場した子供たちには「応援体験」が用意された。蹴球部が普段の試合で使っている掛け声を教わり、太鼓の音に合わせて、メガホンで選手たちへ声援を送った。

広告欄

掲載のお問い合わせは
shinbun@un.tsukuba.ac.jp
までお願いします。

「平和が軽くなっている」

被爆者村上さん(87) 訴え

人類史上初めて核兵器が使われてから今年で79年。被爆者の高齢化が進む中、被爆体験を証言してきた女性がつくば市にいます。8歳の時に広島市で被爆した村上啓さん(87)だ。2002年に同市から娘が住む茨城県へ転居した。村上さんは「最近、平和という言葉が軽くなっている。若者は、社会や時代に左右されず、何が正義かを自分の頭で判断できるようにしてほしい」と訴える。(川上真生 社会学類3年、川畑悠成 知識情報・図書館学類1年)

広島県北部から祖父が探りに来てくれ、弟と祖父の家に向かった。50㎡以上の未舗装の道を裸足歩いて避難する中、いくつもの死体を踏んだ。その感觸は今でもよみがえる。

2カ月後、高熱や血尿などの症状が出た。医師から「細菌爆弾だったかもしれない。他の人に伝染しないように」と言われ、鍵の掛かる小部屋に隔離された。1カ月ほど経過すると症状が落ち着いてきた。81年に母が亡くなった。原爆を題材にした随筆や児童文学



8歳で被爆した時の体験を真剣な表情で話す村上さん(5月11日、つくば市内) = 川畑悠成撮影

た。広島市職員だった父は「自分は広島を再建するために一生懸命だったが、日本が二度と戦争をしないように魂を入れるのは啓の世代だ。どんな争いにも加担せず、一人になっても平和を守り抜く人間であってほしい」と言われた。

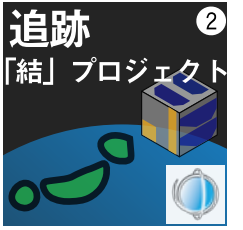
村上さんに筑波大生へのメッセージを尋ねた。次の言葉と一言が届いた。

「全国から、世界から学生が集まる筑波大。20世紀の地球上はここが戦場だった。今も紛争が絶えず、平和は遠ざかっていくばかり。自分の出身地でこんなことがあったかを知り、自分軸を持ち、武力に頼らず、平和貢献してほしい」と

若者の学意欲に「なごられ ヒロシマ語る」発の楽しさを共有しながらプロジェクトを進めた

を執筆して発表するようにしたが、自身や身内の被爆体験を題材にすることはなかった。「生木を裂かれる感があった」と語る。転機となったのは94年。ドイツ人宣教師を原爆資料館に案内した時に「子供の頃に仲の良かった友人が突然なくなった東京を父と訪れ

た。広島市職員だった父は「自分は広島を再建するために一生懸命だったが、日本が二度と戦争をしないように魂を入れるのは啓の世代だ。どんな争いにも加担せず、一人になっても平和を守り抜く人間であってほしい」と言われた。



宇宙に迫る楽しさ共有 19人が新加入



地球周辺の軌道を飛行する人工衛星は、太陽光にさされる側と陰になる側で、80度以上の温度差が生じる。衛星の製作では、本体設計▽機体を制御するプログラムの製作▽宇宙空間での姿勢制御法開発▽安定な無線通信法開発▽太陽電池による安定的な電力供給―五つの「系」に分かれ、活動している。

新入生は5月までに五つの系全ての活動を体験した後、所属する系を決める。熱・衝撃に強い本体設計を担当する「熱・構造系」には6人が新加入した。

同系では週1回、総合研究棟Bで進行状況を確認するミーティングを開いている。5月12日のミーティングでは、総合研究棟Bで設計ソフトの使い方を説明する上級生(左)

こうした温度変化の影響を回避し、内部を適温に保つことが求められる。また、地球を周回する衛星との通信方法にも工夫が必要だ。「結」プロジェクトでは、上級生が丁寧な疑問に答えていた。

松島さんは「上級生に聞きやすい雰囲気を作ること重視している」と言う。

新入生の番場先生さん(工学1年)は「高校まではプログラミングだけを楽しんでいたが、ハードウェア開発ができる熱・構造系に引かれて入った。活気があるプロジェクトに変わってうれしい」と目を輝かせた。

新メンバーを迎えた「結」は、2026年1月の打ち上げに向けて活気を増したようだ。(青野心平 物理学類2年 写真も)

Who's Who?

英語教室主宰者、大学院生、CEOの三つの顔を持つ

田畑智子さん(教育P後期3年)



ネパールでエージェンシーについて発表する田畑さん = 本人提供

東京都小金井市で30年ほど前から子供向け英語教室を主宰している。その間、3人の子育てを終え、現在は筑波大学院博士課程で国際・比較教育学の研究に取り組み。筑波大発ベンチャーのCEO(最高経営責任者)でもある。

あなたはいったい何者? その聞きたくなるほど、マルチな活躍ぶりだ。最近の目標の一つが「ネパールとつくば市をつなぐ、農家の人手不足を解消すること」と言うから、ますます何者か分からなくなる。

だが、これらは全てつながっている。きっかけは2015年4月のネパール地震だった。マグニチュード(M)7.8の巨大地震で、同国民の5人に1人が被災したとされる。田畑さんは東日本大震災の体験を踏まえ、英語教室の子供たちと一緒に被災地の人々を励ます手紙を英語で書いて送った。

その後、被災地の住民との交流が始まり、18年に現地を訪れた。そこで目の当たりにしたのが、困難な状況でも学びをやめない人々の姿だった。険しい山道を何時間も歩いて学校に通う子供がいれば、父を早くに亡く

ネパールとつくばの農家つなぎたい 尽きぬ挑戦意欲

エージェンシーは「環境をより良くするために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する意志の力」とされ、近年の教育で重要視されている。「ネパールの教育にも有効な概念だ」と確信し、修士課程修了後、研究環境が充実した筑波大学院博士課程でその研究を続けることを決意したという。

博士論文の主要テーマは、ネパールの教員がエージェンシーを発揮できる環境の探索になる見通しだ。

筑波大学院進学直前には、エージェンシーを涵養できる教育

今年さらに新たな取り組みを始めた。研究でもネパールと深く関わるうちに、自給自足農家の多いネパールの田舎には、日本の近郊農家の仕組みに興味を持つ人が多くなった。そこで、プロローガーを連発する直接ネパールの農家人材とつくばの農家をつなぐシステムをネパール人研究者と作った。9月には、ネパールから技能者1人が市内の農園に来る予定だ。

5月には五十嵐立青市長に面会してこの事業構想を伝えることもできた。

「筑波大で研究できてとても楽しい。つくばというまちも大好きになった。つくばへ恩返しをしていきたい」と語る。

選任を過ぎてもさまざまな顔を持ち、パワフルに全てをこなす彼女の、次の一手が楽しみだ。(青野心平 物理学類2年)

東京小金井市で30年ほど前から子供向け英語教室を主宰している。その間、3人の子育てを終え、現在は筑波大学院博士課程で国際・比較教育学の研究に取り組み。筑波大発ベンチャーのCEO(最高経営責任者)でもある。

あなたはいったい何者? その聞きたくなるほど、マルチな活躍ぶりだ。最近の目標の一つが「ネパールとつくば市をつなぐ、農家の人手不足を解消すること」と言うから、ますます何者か分からなくなる。

エージェンシーは「環境をより良くするために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する意志の力」とされ、近年の教育で重要視されている。「ネパールの教育にも有効な概念だ」と確信し、修士課程修了後、研究環境が充実した筑波大学院博士課程でその研究を続けることを決意したという。

今年さらに新たな取り組みを始めた。研究でもネパールと深く関わるうちに、自給自足農家の多いネパールの田舎には、日本の近郊農家の仕組みに興味を持つ人が多くなった。そこで、プロローガーを連発する直接ネパールの農家人材とつくばの農家をつなぐシステムをネパール人研究者と作った。9月には、ネパールから技能者1人が市内の農園に来る予定だ。

今号から11人の新入部員が編集部に加わってくれました。取材や原稿執筆、編集作業に携わった部員も既について、頼もしい限りです(1面)。「学問探求チュートリアル」の開設1面も、本語教育について取り上げました(5面)。授業に取組み教員や授業を受けている学生たちの声を聞きます。筑波大の教育の幅広さと先進性を感じました。マレーシア校での日本語教育にも生かされることでしょう(筑波大にはさまざまな分野で新しい風が吹いています。天王台雙峰吹奏楽団が創設され(4面)、筑波世国際総合学類2年)

次号は
10月2日(水)
発行予定です

編集後記

今号から11人の新入部員が編集部に加わってくれました。取材や原稿執筆、編集作業に携わった部員も既について、頼もしい限りです(1面)。「学問探求チュートリアル」の開設1面も、本語教育について取り上げました(5面)。授業に取組み教員や授業を受けている学生たちの声を聞きます。筑波大の教育の幅広さと先進性を感じました。マレーシア校での日本語教育にも生かされることでしょう(筑波大にはさまざまな分野で新しい風が吹いています。天王台雙峰吹奏楽団が創設され(4面)、筑波世国際総合学類2年)

■筑波大学新聞編集部
▽編集代表 鴨志田公男
(筑波大学・教授)サイエンスコミュニケーション
▽編集長 川上真生(社会学類3年)▽副編集長 山本貴世(国際総合学類2年)青野心平(物理学類2年)ほか編集部員21人

発行所 筑波大学
印刷 リーコム